

第一日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

その他の日曜日
教会学校 9:00～
聖書を読む会 9:00～
主日礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2019 (平成31年) 2. 10

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

聖書と祈り会
毎週水曜日 10:30～
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

「世界は神に祝福されているか」

牧師 松谷 祐二

創世記 第一〇章一～二節

ノアの息子、セム、ハム、ヤフェトの系図は次のとおりである。洪水の後、彼らに息子が生まれた。ヤフェトの子孫はゴメル、マゴク、メティア、ヤワン、トバル、メシエタ、ティラスであった。ゴメルの子孫は、アシケナズ、リファト、トガルマであった。ヤワンの子孫は、エリシヤ、タルシシュ、キティム、ロダニムであった。海沿いの国々は、彼らから出て、それぞれの地に、その言語、氏族、民族に従って住むようになった。ハムの子孫は、クシュ、エジプト、プト、カナンであった。クシュの子孫はセバ、ハビラ、サプタ、ラマ、サプテカであり、ラマの子孫はシエバとデダンであった。クシュにはまた、ニムロドが生まれた。

ニムロドは地上で最初の勇士となった。彼は、主の御前に勇敢な狩人であり、「主の御前に勇敢な狩人ニムロドのようだ」という言い方がある。彼の王国の主な町は、バベル、ウルク、アツカドであり、それらはすべてシナルの地にあった。彼はその地方からアツシリアに進み、ニネベ、レホボト・イル、カラ、レセンを建てた。レセンはニネベとカラとの間にある、非常に大きな町であった。

創世記 第一一章一～九節

世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。東の方から移動してきた人々は、シナルの地に平野を見つけ、そこに住み着いた。彼らは、「れんがを作り、それをよく焼こう」と話し合った。石の代わりにれんがを、しつこいの代わりにアスファルトを用いた。彼らは、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよう」と言った。主は降って来て、人の子らが建てた、塔のあるこの町を見て、言われた。「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことを始めたのだ。これでは、彼らが何を企てても、

妨げることではできない。我々は降って行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしまおう。」主は彼らをそこから全地に散らされたので、彼らはこの町の建設をやめた。こういうわけで、この町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の言葉を混乱（バベル）させ、また、主がそこから彼らを全地に散らされたからである。
(新共同訳聖書)

「ノアの箱舟」の物語の中で、神が創造された世界は、大洪水によって一度リセットされました。そして神は、人間自身を何とかしてあるべき姿に回復し、そこから世界を新しく再創造することを心に決められます。

生き延びたノアと息子たちから、また子孫が増え、氏族、民族となって世界中に増え広がっていききました。創世記一〇章は、昔の読者にはよく知られた諸民族の名前を七十数え上げ、その系譜を整理しています。今では詳細が不明な名前も多々ありますが、これら諸民族の居住地は、大雑把に、今日でいう中東地域、ギリシャの一部、エジプトやスーダンをも含む広い範囲に及ぶと見られます。中でも、勇士ニムロドの王国とその主な町々、シナルの地にあったバベル（バビロン）やアツシリアのニネベ（いずれも場所は今日のイラク国内）と言え、ずっと後、紀元前八世紀から六世紀にかけて、イスラエルとユダの国を苦しめたアツシリア帝国、新バビロニア王国の首都です。遙か昔から、これらの町々は文明が栄え、有名であったのです。

こうして、先の洪水の後、再び人間が増えて世界中に広がり、文明・文化を進展させていくこと自体は、神の御心になうことでした。神がノアと彼の息子たちを祝福して「産めよ、増えよ、地に満ちよ」と言われた（創世記 第九章一節、七節）、そのお言葉の通りになったのです。

しかし、その反面、そうして増え広がった人間の心根はどうであったかを、一一章、一般に「バベルの塔」と呼ばれる物語は描いています。れんが、アスファルトに代表される、当時としては最

新の技術を手にした人々は、「天にまで届く塔のある町を建て、有名になろう」としました。「天」は神の領域です。この言葉からは、神の域に達し、神に挑もうという野心が伺われます。

この人々は、世界に増え広がって住むことを、神の祝福とは受け止めていません。むしろ、神に対する被害妄想にとらわれています。われわれは団結し、一つ所に集まり、強い町、強い国をつくるのだ。神をもしのぐ勢いを持ち、神にも国々にも、見せつけてやるのだ。そうしなければ、われわれは散り散りにされて惨めなことになる。「全地に散らされることのないようにしよう」。

神の好意を信じない人間、神の祝福を無にする人間！「世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた」。世界中の人間の心も、こんな具合に同じであったとしたら、あの洪水は何だったのでしょうか。これでは、新しい世界へのリニューアルどころか、古い墮落した世界への退行です。

物語の中で、神はこの人間の不遜に、痛烈な皮肉でお答えになります。「一つの民、一つの言葉だと、こんなことを始めるのか。おお、何という脅威。全地に追い散らす、冷酷な神を信じているのか。ならば、あなたがたの信じた通りになるように」と言わんばかりに、主（神）は全地の言葉を混乱させ、人々を全地に散らされました。

創世記十章では、ノアの子孫は「それぞれの地に」とあるように、言語の多様性は自然発生的なものとして書かれています。一一章では、一つの言語だったものが、主によって混乱させられた、と書かれます。論理的には矛盾です。

しかし、二つの記述は、わたしたちの世界の現実を、裏表、両面から正しく捉えています。わたしたちは、神の祝福によって、様々な言語、文化を持ちながら世界中に増え広がっています。しかし、それを神の祝福と感謝せずに、むしろ神に對抗し、「一番強いのはわれわれだ」と誇示したが欲望においてはばかり一致団結する。互いの言葉が聞き分けられない、心が通じ合わないのも無理はありません。このままではいけないのです。

教会学校幼稚科のいま

宍戸 真理

昨年の教会学校のクリスマス祝会は、小
 学科の子供達が、スクリーンに投影した絵
 本『十字架の道』を朗読し、その合間に幼
 稚科の子供達が讃美歌を歌いました。イエ
 ス様の復活のお話を、短い練習時間でした
 が皆で協力して作り上げ、とても良い一時
 を過ごせました。クリスマスに、なぜイエ
 ス様の最後の一週間の絵本を、と初めは
 おもいましたが、これを計画した大司姉のイ
 エス様が生まれたのは、何のためか、誰の
 ためかをもう一度思い巡らしたい。と言う
 意図が込められていました。子供達にも、
 充分伝わったと思います。

朗読した、子供の中に幼稚科の時に、母
 親から離れられず、一年間ずっと母親が付
 き添って出席していた女の子がいました。
 よく、泣いていたその子供が、大勢の人の
 前で、堂々と朗読していました。その成長
 は、眼を見張る物でした。幼稚科の中にも、
 人前に出て歌う事が出来なかった男の子
 が、年長になって、緊張しながらも讃美歌
 を歌っていました。子供達が、一年ごとに
 成長していく様子を見守られる事は、私の



第一主日礼拝は、教会堂で合同礼拝です

喜びです。

教会学校では、第一主日礼拝は、幼稚科、
 小学科中高生、保護者も共に、礼拝堂にお
 いて、松谷牧師の司式で礼拝を守っていま
 す。幼稚科の生徒には、少し難しく緊張す
 る時間です。聖餐式も行っています。始め
 の頃は、子供達が、静かにしていられるか
 心配しました。今では、注意することもす
 くなくなりました。今では、親子で出席する方も増
 えました。嬉しい事でした。

一昨年の秋には、幼稚園教諭の眞野先生
 が、私達の群れに加わりました。竹本先生
 に続いて、眞野先生も、幼稚科の説教を担
 当して下さっています。分かりやすいお話を、
 子供達は、聞き入っています。

このような恵まれた環境のなか、他の教
 会学校に比べて出席者も多く心配が、有り
 ませんでした。ところが、残念なことに新
 年度から、年少の子供の出席が、有りませ
 ん。おまけに、南部坂幼稚園の子供の出席
 がほとんどないのです。

教会学校の子供達の出席数の減少は、ど
 の教会でも起こっていることです。そんな
 中でも、近隣のミッション系の小学校付属
 の幼稚園生が熱心に通つています。新年に
 なって、三人の子子供達が、新しく仲間入り
 しました。とても、嬉しいことでした。
 神さまのお話を、しっかりと聞いて、讃美
 歌を大きな声で歌っている子供達ととも
 に、この一年歩んでいきたいとおもいます。

一月の幼児讃美歌

どんなときでも どんなときでも
 くるしみにまけず くじけてはならない
 イエスさまの イエスさまの
 あいをしんじて

どんなときでも どんなときでも
 しあわせをのぞみ くじけてはならない
 イエスさまの イエスさまの
 あいがあるから

報 告

*南部坂幼稚園では、一月九日(水)から
 三学期が始まりました。安藤由見子教諭
 が、療養のためにしばらく休職となりま
 した。

*各献金(熊本・大分地震被災教会支援献
 金、東京神学大学後援会献金、隠退教師
 を支える運動、神学生を支える献金、会
 堂建築献金、オルガン献金)へのご協力を、
 を、引き続き宜しくお願いします。

《各部報告 一月度》

成人会

日 時 一月二十日 十三時半〜十四時半

場 所 教会堂会議室

出席者 五名

開会祈禱 木村信太郎兄

内 容

一、聖書輪読

ナホム書、ハバクク書を二節づつ輪読し
 た。

二、内容

A ナホム書

・著者：ガリラヤ湖周辺のカペナウムでは
 ないかといわれるエルコシュ町の人ナホ
 ム。

・執筆年代：紀元前六六三〜六一二年。

・執筆の目的：ナホムがこの預言書を書い
 たのは、二ネベの人々に悔い改めを促す
 ためにはなかつた。そのためには一五
 ○年前にヨナにより預言がなされていま
 す。ナホムは、神がアッシリヤに裁きを
 宣言されるので失望しないように、ユダ
 の人々に語ったのです。

B ハバクク書

・執筆時代：紀元前六〇九〜五九八年
 ・概説：預言者と主との応答が詩文形式で
 表されており、「神に従う人は信仰によっ
 て生きる」と示されています。これらは

新約聖書(ローマ書、ヘブル書)に引用
 されています。この書には、ユダヤ人が
 バビロンに捕囚として連れていかれる時
 の残酷さが描かれており、預言者の嘆き
 が描かれています。

三、次回 二月十日
 聖書箇所 ゼファニヤ書、ハガイ書
 黙禱をもって閉会した。

婦人会

日 時 一月二十七日 主日礼拝後

場 所 教会堂会議室

出席者 九名

開会祈禱 菊池才知子姉

閉会祈禱 全員順次小祈禱

内 容

一、聖書研究

「サムエル記 上」四章一節〜七章一節

ペリシテ人は鉄器文化を用いた強力な軍
 事力でカナンの諸民族を脅かしていた。
 ペリシテに出撃したイスラエル軍はエベ
 ン・エゼルでペリシテ軍に打ち負かされ
 四千の兵士を失った。イスラエルの長老
 たちは話し合い、主の契約の箱をシロカ
 らこの陣営に運び込んだ。しかし、イス
 ラエル軍は再び打ち負かされ、歩兵三万
 人が死に、神の箱は奪われ、エリの二人
 の息子も死んだ。ペリシテ人は奪った神
 の箱を、アシシュドのダゴンの神殿に運
 び入れダゴン像の傍に置いた。主の御手
 はアシシュドの人々に災厄をもたらした。
 ペリシテ人は賠償の捧げものを付けて
 イスラエルに送り返すことにした。主
 の箱はキルヤト・エアラムのアビナダブ
 の家に運ばれ、息子エルアザルを聖別し
 て主の箱を守らせた。

次回 二月二十四日 「サムエル記 上」
 七章二節〜八章まで

二、来年度愛餐会 愛餐会分担グループの
 再編成とメニューの簡略化などをテーマ
 に新年度までに作成する。
 三、二月愛餐会の打合せ